

# 企業ニュース 大日本住友製薬

(東証1部: 4506) <https://www.ds-pharma.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 中堅創薬メーカー

2005年、大日本製薬と住友製薬との合併により誕生。精神神経、がん、再生・細胞医薬の3領域に注力する創薬メーカー。現在の主力商品は11年に米国で上市した統合失調症治療剤「ラツダ」で、19年度の北米での同製品売上収益は1,895億円と全社売上収益の約4割を占める。抗精神病薬で世界第2位、精神神経領域で世界第4位の売上を誇る製品（19年、会社資料より）で、日本では20年6月に販売開始した。米国における「ラツダ」は23年2月に独占販売期間満了を迎え、以降の業績への影響が懸念されている。「ラツダ」に変わる成長エンジンとして期待したいのが、前立腺がん治療剤「レルゴリクス」（21年1月販売開始）、過活動膀胱治療剤「ビベグロン」（20年12月米国承認取得、4月販売開始予定）など。両製品とも適応拡大が見込め、ブロックバスター（売上1,000億円超の薬剤）となるとの期待もある。

### ◇レルゴリクス、ビベグロンの開発状況

コード	適応症など	開発・申請状況
レルゴリクス	進行性前立腺がん	21年1月米国販売開始
	子宮筋腫	20年5月米国申請済み
	子宮内膜症	P3、21年前半申請予定
ビベグロン	過活動膀胱	20年12月米国承認済
	前立腺肥大症を伴う過活動膀胱	P3、22年度結果判明予定

(出所)大日本住友製薬資料よりCAM作成

## 「ラツダ」が業績をけん引

21.3期・第3四半期（4-12月）の連結業績は、売上収益が3,948億円、前年同期比11%増、コア営業利益（営業利益から非経常的な要因により発生した損益を控除して算出）726億円、同13%増。北米セグメントにおける「ラツダ」の売上収益が1,605億円、同13%（184億円）増と、業績をけん引した。為替によるマイナス影響は受けたが、販売単価上昇も寄与した。

21.3期業績の会社計画は、売上収益が5,150億円、前期比7%増、コア営業利益が630億円、同12%減。従来の会社計画（10月28日公表）から売上収益で90億円、コア営業利益で160億円上方修正した。「ナパブカシン」のフェーズ3試験の解析結果において主要評価項目を達成できず、関連資産減損などの計上を見込むため営業利益以下は下方修正した。米国における「ラツダ」の販売は好調に推移している。ファイザー社との「レルゴリクス」提携契約一時金（6億5,000万ドル）の一部も売上に計上される模様。同提携では婦人科領域米国承認時マイルストーン（2億ドル）、販売マイルストーンなど総額で最大42億ドルを受領する。

## [株価動向・投資判断]

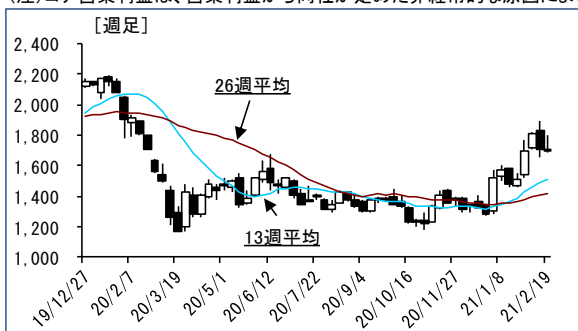
独占期間満了までは「ラツダ」の業績けん引の継続が見込めよう。加えて中期的な成長けん引役が期待される新薬を上市しており、今後の市場への浸透に注目したい。

### <4506 大日本住友 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.3	459,267 (▲2)	77,299 (▲15)	57,884 (▲34)	48,627 (▲9)	122.4	28.00
20.3	482,732 (5)	71,982 (▲7)	83,239 (44)	40,753 (▲16)	102.6	28.00
21.3 予	515,000 (7)	63,000 (▲12)	49,000 (▲41)	27,000 (▲34)	68.0	28.00

(注)コア営業利益は、営業利益から当社が定めた非経常的な原因による損益(調整項目)を除いて算出



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/2/19)	1,699 円
昨年来高値(高値日)	2,191 円 (20/1/14)
同 安値(安値日)	1,166 円 (20/3/19)
予想 P E R (21.3 予)	25.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,377.2 円
P B R	1.23 倍
予想配当利回り	1.65 %
(1株当たり配当金年28.00円)	
R O E (20.3)	7.9 %
発行済み株式数	39,790 万株